

上関町にできるかもしない

「中間貯蔵施設」って何？その問題点は？

Q1 中間貯蔵施設って何？

A1 原発から出た使用済み核燃料を、次の行き先が決まるまで、一時的に保管する施設。

Q2 なぜ今、上関町に中間貯蔵施設を作ろうという話が出てきたの？

A2 上関に持ち込まれる予定の使用済み核燃料は、中国電力のものだけではなく、関西電力のものもあるのです。関西電力エリアのどこも受け入れようとしているのです。関西電力は福井県と「使用済み核燃料は県外に持ち出す。中間貯蔵施設の県外候補地を2023年末までに確定させる」と約束をしていましたので、急いでいるのです。

Q3 問題点は？

A3 そもそも使用済み核燃料は青森県八戸所村の「再処理工場」で再処理して、もう一度特殊な原発「高速増殖炉」で使う計画がありました。しかしその研究は長年行われていますが、再処理工場もいまだ稼働しておらず、高速増殖炉の研究施設「もんじゅ」は廃止が決まり、核燃料サイクル計画は破綻しています。また、最終的な核廃棄物の処理場が日本中どこにもないというのが現状です。つまり、「中間」と言いながらその後の行き先が決まっておらず、中間貯蔵施設は、“最終的な核廃棄物の置き場”になってしまふことが懸念されます。

Q4 中間貯蔵施設は、使った後のゴミを置いておくだけだからそんなに心配はない？

A4

使用済み核燃料は、頑丈な容器（キャスク）に入れて中間貯蔵施設に保管されますが、冷却のため外気を取り込むので、外部に放射線が排出され続けます。
建物の寿命は50年くらいと言われています。次の行き場がなくとも「安全だ」と言い続けられるでしょうか。
これから30年の間におこると言われる南海トラフ巨大地震が起きても、大丈夫だと誰が言えるのでしょうか。
・安下庄湾から上関町の予定地まで、南海トラフ巨大地震による誘発地震が起こる可能性の高い活断層が多くあります。
・170年前の南海地震では、外入には標高16m、棕野には23.5mまで津波がきました。
・周防大島町は予定地から20km圏内。福島では原発事故後、20km圏内は1年以上立ち入り禁止になりました。そして12年を経た現在もにまだ帰還困難区域が存在します。
地震など想定を超える放射能流出事故の可能性が排除できないのです。

Q5 中間貯蔵施設の建設が国の原子力政策に及ぼす影響は？

A5

日本中の原発に使用済み核燃料がたまっています。このまま満杯になると原発を稼働し続けることができません。
昨年国は、今ある原発の使用年数を60年から80年に延長し、さらに新しい原発建設に向けてハッキリ舵を切りました。中間貯蔵施設を作ることとは、老朽化した原発を再稼働させ、原子力政策を推進させることにつながります。

スリーマイル島原発事故、チエルノブイリ原発事故、福島第一原発事故、これらをみてきた私たちが目指すべき社会の姿は、ハッキリしていると思います。原発を一日も早く止めて、原子力に頼らないエネルギー政策と社會を！
“一個人の傍観者が支える原子力（小出力）”であつてはならないと思います。だから声を上げましょう。傍観者ではないからません。

周防大島町有志